

塩飽本島町笠島伝統的建造物群 保存地区

国の「伝統的建造物群保存地区」の選定を受けている笠島の集落は、法然上人ゆかりの専称寺門前を北へ、小さな堀切りの坂を越えた所にあります。北に開けた海に沿って本瓦葺きに漆喰塗りの白壁や、なまこ壁に千本格子の窓をあしらった町並みがひしめき、それらが実にどっしりと落ち着いた、たたずまいを見せて見事なまでの美しさを演出しています。三方を低い山で囲まれた笠島は、またの名を城根と呼ばれるとおり、かつて海賊たちは背後の山に城を築いて、ここは根拠地に海に進出していったのです。

そして、江戸時代には塩飽の船持衆がその富と誇りを競い合って、屋敷に意匠を凝らしたのです。集落を南北に走る東小路、海岸に平行して弓なりに曲がるマッチョ通りには現在、江戸時代の建物が13棟、明治時代のものが20棟ほど残っていますが、どの家にも心にくいばかりの工夫の跡を随所に見受けることができます。

こうした建物の中で、国の選定を受け、しかも屋敷や部屋の見学が許されるのは、真木邸と小栗邸、藤井邸の3件です。

ーメモー

江戸時代末期に、シーボルトがここに立ち寄って瀬戸内随一の港町だと絶賛したという。町屋形式の住宅が並び中世の城下町の面影を留めています。

1808年、伊能忠敬が丸亀に入り測量(9/20~10/1)した際、本島で日食を観測した。



※伝統的建造物群保存地区「歴史の町並み」にも紹介されています。